

## 第1回 高知県史編さん編集委員会 概要

日 時	令和3年11月24日(水) 10:00~12:00
場 所	高知県立歴史民俗資料館
出席委員	藤井委員長 羽賀副委員長 井上委員 渡部委員 三宅委員 大門委員 岩佐委員 鋤柄委員 松田委員 常光委員 佐藤委員 岡本委員 三浦委員 原委員
事務局	岡村部長 依光課長 山崎室長 南チーフ 吉井主幹 松岡さん
配布資料	高知県史編さん基本方針 高知県史の編さん計画案 高知県史の編さん体制 高知県史編さん編集委員会設置要綱 高知県史編さん専門部会設置要綱 高知県史編さん編集委員会準備会における協議概要 考古部会協議メモ

### 1 開会

### 2 挨拶：岡村文化生活スポーツ部長より開会挨拶

### 3 議事：委員の主な意見

#### (1) 分野ごとの刊行巻数について

##### 【全体】

- ・(事務局) 古代中世は旧石器時代から長宗我部氏の追放まで、近世は山内氏の入国から廃藩置県まで、近代は高知県の設置から終戦まで、現代は終戦後から平成時代まで、平成時代をどこまで扱うかは議論があろうが、先日の準備会では、この時代区分で概ね了解いただいたと考えている。
- ・巻数が決まっても、1冊の頁数は何も言っていない。多少のことはもちろんかまわないが、一応千頁位ということで皆さんのイメージを共有していただきたい。
- ・県史の資料編と通史編を比べると、どうしても資料編が分厚くなるが、千五百頁を超えると本を作るのがすごく大変になるので、どんなに増えてもそれまでにしてほしい。
- ・どうしても千五百頁以上が必要なら、分割して1冊増えることになるが、編さん日程からいっても、そう簡単に増やしていいというわけにいかないと思う。
- ・図面や資料を掲載しやすいことは確かなので、判型をA4版にするのはいいが、その場合は逆に頁数を少し絞ることも念頭に置いてはどうか。
- ・以前の民俗資料編が千五百頁。非常にぎっしり詰め込んでいるが、重さもあるし、持ち運びも利便性に欠ける。千頁で適正な頁数だと思う。
- ・完全に決まった段階ではないが、一応枠組としては、古代中世は本編1巻と資料編3巻、近世は本編2巻と資料編4巻、近代は本編2巻と資料編3巻、現代は本編1巻と資料編3巻、考古は本編と資料編の区別が少し曖昧ながら本編1巻と資料編3巻、民俗は本編2巻と資料編3巻、文化財は資料編3巻、自然はどういう持っていく方をするかによるが、まあ1巻ということでお考えいただきたい。
- ・別編は今のところ担い手がない。事務局からの具体的な提案を踏まえて議論したい。

### 【古代・中世】

- ・(事務局) 準備会では、「膨大な量の資料にどう対応したら良いか」「全体の割り当ての巻数を見ながら検討していく必要がある」「長宗我部氏の資料は高知県史で扱わなくても何らかの対応が必要」との意見を頂戴した。
- ・文献資料が始まるところから古代中世部会が担当するつもりだが、今後考古部会や文化財部会と相談しつつ、どこに重きを持って通史編を作っていくか決めていきたい。
- ・資料編については、長宗我部地検帳のような膨大な資料の扱いが課題で、別編の手段があるならば、その方が適している。
- ・長宗我部地検帳の活字はあるが、それなりに不備が見付かっている。資料編はともかく、通史編では確実に使うので、何らかの形で世に出るといいなと思う。

### 【近世】

- ・(事務局) 準備会では、「普請期、明治初期の高知藩時代の資料をどのように扱うのか」「近代部会との合同作業が必要ではないか」との意見を頂戴した。
- ・近世の資料は全体として量も多いが、1点ごとの頁数も多い。資料編の4冊に抄出で入れると、かなり価値が下がる可能性があるので、日記や記録類は別編の資料集として発刊できることがセットであれば1番いい。
- ・歴史考古の成果をどう取り入れていくのかも課題で、考古部会との関係も必要。
- ・県民の関心を考えても、幕末維新时期をどう扱うかという問題が非常に大きい。資料編の1冊、本編の2冊目の半分位を幕末維新时期に充てるイメージを持っている。
- ・幕末維新时期が廃藩置県で切れるわけではなくて、特に高知の場合は、その後につながっていく側面が大きい。近代でも遡って調査すると思うので、できれば近世と近代を跨がる形で幕末維新を調査するサブグループを考えたい。

### 【近代】

- ・(事務局) 準備会では、「3年後が民撰議院設立建白書が出されて150年に当たる。資料編の1巻は自由民権関係になるか」「行政文書がかなり失われているが、学校資料も掘り起こされている。方針を定めて作業を進めたい」との意見を頂戴した。
- ・25年かけて刊行した豊田市史で220カ所位の区有文書を調査した。実際に市史で使ったのは僅かだが、その向こうに奥深い歴史があると実感した。高知県でも随分資料を失っていると聞かすが、旧近世村から伝来している区有文書の意味合いが非常に重い。
- ・3冊の資料の1冊を自由民権編とする方向で考えている。その人的・基礎的背景は幕末まで遡るので、その辺りを議論するために、サブグループや作業部会が必要だ。
- ・戦災などで行政文書が失われてきた状況が近代部会の最大の問題で、大変膨大な作業となるが、どうしても復元作業が必要だ。

### 【現代】

- ・(事務局) 準備会では、「戦後前期と戦後後期に加え、高知の特徴を扱う特論で構成するのも1つの手法」「学校資料の状況把握にも努めたい」との意見を頂戴した。
- ・資料編のうち2冊については、一応おおまかに戦後前期、戦後後期としている。
- ・行政文書は残存状況が悪いということで、学校資料の活用も含めて、できるだけ今の段階で基本的な資料を収め、後々活用範囲が広い形で資料の収集に当たりたい。
- ・3冊目を特論としているのは、本編の構成・内容と関わってくる。高知県の特色などの議論を始めているが、最終的には委員の選定、現代部会の発足を待って、できるだけ速やかに議論して、本編と結びつく形で特論を構成できるように詰めていきたい。
- ・県史の通史編で時代像を書いていくのはなかなか大きな課題だが、戦後の高知県がどういう時代の特色を持っているのか、それにぜひ挑戦してみたい。

## 【考古】

- ・(事務局) 準備会では、「戦争遺跡・中世城郭・近世城下町など新たな知見が出てくる中、資料編3冊で対応できるか不安。できれば4冊あればいい」「青森県史のようにA4版にするなど、収録の中身を多くする工夫も考えたい」との意見を頂戴した。
- ・通史編でどこから歴史時代として叙述を始めるかという枠組みについて、高知県の旧石器時代についてもある程度材料があれば、やはりそこから書き始める必要がある。
- ・古代中世の通史編で旧石器時代から長宗我部までを1巻で収めるのは難しい。考古の本編も前回の県史に引き続いて今回の準備をしているところで、少なくとも旧石器時代から古墳時代位までは通史としての考古が具体的なことになると思う。
- ・考古が資料編だけなら、古代中世の通史に十分書き込む必要があるし、逆に本編を考古で作ると古いところは書きやすいかも知れないが、歴史時代に入ると、どこまで書き込むか難しくなる。考古の本編の扱いをどうするか、古代中世部会との議論を。
- ・高知県文化財課で公開している高知県文化財地図情報システムを検索すると、近世以前の埋蔵文化財包蔵地、いわゆる遺跡が2559カ所ある。これに近代以降が加わり、もっと増える。遺跡数がそのまま頁数というわけでもないが、700、700、900、600位と、A4版にして千頁を下回るイメージである程度いけると思う。
- ・色んな指定とか発掘、遺跡など、高知県の歴史における考古資料や民俗資料を全部県史に載せるべきかどうかの検討が必要。特に文化財保護審議会や文化財課で本を作ることになった時、県史が全部持っていったということになっていいのかわりか危惧する。
- ・資料編を構成する方針として、本編の執筆の前提となる各時代の資料であり、基本的に時代順で遺跡ごとの記述ということを持っていこうと思っている。
- ・遺跡と文献を合わせて初めて歴史というのが常識で、考古の本編とともに文献の方の本編にも必要な材料として提供していくのが考古資料編の役割だと思っている。

## 【民俗】

- ・(事務局) 準備会では、「資料編の例示として、語彙、民具、民俗資料を扱う案が挙げられる」「前回の県史では、年中行事や日曜市などの街路市、交通・交易、口承文芸などの課題が収録されていない」「前回の県史やそれ以前の資料も含めて、丁寧に資料を収集し、総合的にまとめていきたい」「例えば本県の特徴でもある山間地域と沿海・街場に分ける案もある」との意見を頂戴した。
- ・ビジュアル、民俗写真を有効に使って、県民の皆さんにも興味を持って読んでいただけるような民俗編を目指したい。
- ・前回の本編の中心になっていた桂井和雄先生が長期療養という不測の事態もあって、重要な分野が欠けている。普段蓄積された資料を補って総合的に構想することが必要。
- ・資料編の3巻については、第1巻が言葉、第2巻が物、第3巻が民俗の時間軸を捉える近世後期から明治期にかけての資料群をまとめておきたい。
- ・民俗は、昭和や平成、直近の過去を対象とすることが多いが、我々の生活様式は常に世代を超えて繰り返される伝承という要素が強いので、その歴史的な進度を描くことは極めて重要だし、ここが近世や近現代の先生方と具体的に資料を通じて情報交換できる、分野を超えた学際的な意見交換ができるころだと思っている。
- ・祭礼は、本編の中で扱うことが基本線だが、文化財部会と相談しながら進めたい。

## 【文化財】

- ・(事務局) 準備会では、「資料編3冊では不足する可能性がある」「もし3冊なら、有形文化財2冊、無形文化財1冊か」「考古・民俗・自然分野などの協力が必要」「国指定、県指定など色々あるが、どこまで取り上げるか」「審議会の関係資料があまり残っていない」「文化財の資料、指定の資料も当たっていききたい」との意見を頂戴した。

- ・県内に国宝は豊楽寺薬師堂1件しかないが、国の登録有形文化財が270件位ある。
- ・近代の建築がかなり国の文化財になっている関係もあり、そういったところを網羅すると、おそらく全国にない、かなりユニークな建造物の資料編ができると思う。
- ・どの文化財を入れるかについては、国県指定位でいけると思うが、登録文化財が結構多い。また、美術工芸も179件（国指定が70件で県指定が100件以上）あるので、頁数の割り当てとかいう問題が出てくると思う。
- ・泊屋に置いてある力石が全部墓石だとか、土佐清水の金剛福寺の観音に膨大な体内資料が出てきたとか、新しい知見も入れていかなきゃいけないと考えている。
- ・明治30年に古社寺保存法ができて、いわゆる国宝が始まった。当時の資料は大正12年の関東大震災で燃えてしまったが、それを書き写したのから、当時の指定状況などを調査している。
- ・県内も燃えたので、文化財指定資料を千頁も集めるのはかなり手強いと思う。
- ・京都府は登録文化財が多く、全て本に載せたら爆発する。高知県でも2百数十点あるが、文化財は行政的な枠組もあるので、高知県の歴史という枠の中にどういう形で入れるか、必要なもの、重要なものという視点がいると思う。一方で、この機会にやり切っ飛ばしたい気持ちもあると思うので、兼ね合いを考えながら進めていきたい。

#### 【自然】

- ・(事務局) 準備会では、「対象分野が多岐に渡り、分量を決めるにはもう少し資料と議論が必要」「千葉県史の事例を参考に、写真や記録は別冊でも」との意見を頂戴した。
- ・自然は大変幅広い分野で、植物・環境・防災に至るまでまとめていくということで、他の部会と関わるところも大変多く、県民の関心も高い。資料の収集等に時間を要するが、県民のために良い冊子を作っていきたい。
- ・例えば千葉県では、本編だけで分厚い7分冊、加えて写真集や別編がある。高知県もそういう取り組みで進めるなら、これだけのボリューム感になることも見えてきた。
- ・一方で冊数の制限や県の特色を生かした構成などイメージを統一しないといけない。
- ・編さん計画案で、自然は少しボリュームミーだということで、令和8年からの第2期に入っているが、準備段階でイメージを整理したり、場合によっては作業部会のようなことも含めて慎重に議論を重ねていきたい。

## (2) 各専門部会に必要な委員の候補について

#### 【委員構成の専門分野】

- ・時代ごとの部会の場合、政治行政、産業経済、社会文化と、大まかに3つ位の領域で広く各分野を網羅するような委員の選定が行われてきた。
- ・政治行政、産業経済、社会文化の分担が強過ぎると、最終的な通史編の時代像の協議がうまく運ばないので、委員間の壁を高くしすぎないことも大事だ。
- ・現代部会の委員の選定に当たっては、政治行政、産業経済、社会文化がある程度必要だということを置いた上で、もう1つそれと別に暮らしという分野を置いて、暮らしを軸に各分野が連携できるような編さんを心がけてみたいと思っている。
- ・1980年代に編さんした田無市史の監修者である永原慶二さんは、当時の自治体史として極めて斬新な市民生活の歴史的推移、古代中世から現代まで、生活、暮らしをもって資料を集め、全体を通史に叙述する提案をされた。その時以来、自治体史というのは、市民や県民の暮らしを軸にして編さんするのが意味あることだと思っている。
- ・近代については、1つは民権以降の政治、思想、もう1つは生活史とか生業史も含めて、漁業とか海運とか山村史ができるような経済領域の方を軸に考えたい。

### 【県内委員と県外委員】

- ・正副部会長は県内と県外の組み合わせになっているが、各分野の委員の選定に当たっても、県内委員と県外委員で連携できるような形を心がけたい。
- ・シンポジウムでは、できるだけ県内の方という意見もあったが、広く人材を集めることを考えれば、県内の人材の活用も含めて県外の委員との連携が大事になってくる。
- ・県内と県外の連携のためにも、デジタルツールの設置を強くお願いしたい。
- ・シンポジウムでも意見が出たが、できれば県内の人でやれる体制を考えた方がいい。実際には無理だということで、この委員会の体制も結果的にこういう構成になっている。
- ・県内で歴史に関わる人を育てる方針があるので、そういう視点で人を選んでいただきたい。県外だめという話ではなく、県外で全部を占めることはやらないでほしい。
- ・次の会の時、各部会から、ぜひ県内の方でという視点でこんなふうなことが考えられるということを報告いただきたい。

### 【特別調査委員】

- ・専門部会委員の8名という人数の中で構成しながら、必要な分野については特別調査委員にも加わっていただく形で全体としての分野もカバーしていくようにしたい。
- ・世代交代がいずれ必要なので、専門部会委員にバトンタッチできる特別調査委員の選任が非常に大事になってくる。
- ・専門部会設置要綱の第3条2項に「各部会は、部会長、副部会長及び8名以内の委員を置く」とあるが、特別調査委員の規定はあるか。  
→(事務局)設置要綱には特別調査委員の定義がないが、基本方針の第8の5項に「専門部会と別に、特別調査委員が設けられる」という規定を明示している。
- ・財政的な問題もあると思うので、基本方針に特別調査委員の位置付けがあるのはありがたいが、部会の設置要綱の中にその1項はどうしてもいるんじゃないか。
- ・編さんに加わった人達に参加する権限がない、発言権がないことは考えられないので、実際には一緒にやっていただかざるを得ないと思う。
- ・これから実際に書いてもらおうと、最初に決めた専門委員だけで賄えず、執筆委員が必要。場合によっては事務局が書くこともあるので、柔軟に位置付けておく必要がある。
- ・新潟県史や山梨県史の委員構成は二階建てで、意志決定も含め、調査も会議も全部一緒にやっていた。特別調査委員も専門部会の中に位置付けてもらえれば、あとは運用で色々な形が可能だと思う。

### 【調査体制】

- ・近世と近代は、資料館や博物館の学芸員の協力がないと進まない。高知大学の学生や大学院生が一定数あれば動かすことができると思うが、そうはいかないのが現状だ。
- ・博物館の学芸員は、本分がありながら県史にどう関わるのか整理しなくてはならない。そのハードルをクリアできるような方法をお願いしたい。
- ・県立の組織だけでなく市町村の学芸員も動き始めると、扱いが違くと難しいことが起きる。編さん委員会で市町村にも統一的な方向性を示してもらおうと後々動きやすい。
- ・学芸員に参加してもらうには、県として制度的に各地の博物館あるいは教育委員会を援助するような体制をとっていただかないと進まないと思うので、お願いしたい。
- ・民俗の場合、高知県内をフィールドにして、県外で調査、研究されている方々がかなりいるが、年齢層が高く10年15年先に執筆に参加していただけるか心許ない。
- ・基礎的な資料をなるべく早く整えて、今力のある方に早い段階で執筆の準備に入ってもらいたくのが1つの方法だと考えている。民俗部会が立ち上がったなら、現実可能などころで、本編や資料編の順番が多少入れ替わるかも知れない。

- ・文化財と民俗は、文献の調査より肉体労働的で、特殊技能に頼るところもあるので、例えば高知県立埋蔵文化財センターに委託するような体制作りも検討いただきたい。
- ・高知県の文化財課、市町村の関係部局、博物館、資料館、学校、図書館などと密接に連絡を取り合う必要があるのでは、発行まで要らないと思うが、県史で調査に行ったら連携によってそれが叶うフリーパスみたいなものを検討いただきたい。
- ・上から目線でパスを作って、これ持ってるから見せろというのはまずい。きちんとそこに行って、顔を見て、お願いして、調査する姿勢はちゃんとしておいた方がいい。
- ・パスができれば効率的なのは良く分かるが、だいたい何遍足を運ぶかでどの程度の調査ができるか決まってくる。5年10年経った時に、そういう形で皆さん協力いただける時代がくればそれでもいいと思うが、あまり焦らず地道にやった方がいい。
- ・県史編さん室からこういう所に、県史の調査が始まったので、委員が行ったらよろしくというのをやっていただきたい。
- ・委員会や正副部会長が、どこへ行くか指示してあげないと、事務局は分からないと思う。だから、最初は丁寧に行く方がいいと思っている。

#### 【現代部会】

- ・県史で現代の文化を扱うことはあまりなかったと思うが、高知県の現代に関する調査を見ると、生活文化も含めて文化的な表現が重要な意味を持っているので、後半の文化の領域をカバーできるような専門委員あるいは特別調査委員を考えたい。
- ・高知パルプ生コン事件などを参照すると、現代編の暮らしに関わる自然や環境の問題が決して小さなウエイトを持っていない。県史全体として自然部会が置かれているが、現代部会でも、自然や環境を戦後の暮らしと関わらせて検討する委員構成を考えたい。
- ・現代部会は、部会長、副部会長、専門委員、特別調査委員で会議を開き、できるだけ委員が連携して調査に取り組み、それをもう1回会議に集約するような形をとりたい。
- ・現代部会から、分野別の問題に加えて、むしろ暮らしを軸として編さんしてはどうかという1つの方向性を出された。その方向性を必ず同じようにやれといっても難しいと思うので、各部会で持ち帰って、次回の時にどんな組み立てが1番適切かというのを提案いただいて、全体として調整したい。

#### (3) その他

- ・高知県が旧石器から現代まで分かりやすくまとめている副読本「中高生が学ぶふるさと高知の歴史」を出している。これをぜひ委員全員に届けてもらいたい。
- ・近世・近代・民俗の専門部会を4月から発足できるよう、3月末までに委員の委嘱を行いたい。その他の5部会は、委員に内諾をいただいて、先行調査や先行協議はあり得るが、委員の委嘱は各部会の設置直前と考えている。
- ・1月頃に編さん委員会を開催し、高知県史の目的や刊行計画を報告する。その後、2月頃に第2回編集委員会を開催したい。
- ・まだ煮詰まっていないことがあまりにもあるので、このスタートの間で、もうちょっと編集委員会をやった方がいい。2月にやって、また4月にやるとか、ある程度の期間を置いて部会の事情も聞いて、事務局としての意見を提案していただきたい。

#### 4 閉会